

2018年(平成30年)

第128号

(8月1日)

# 平安月報

The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会  
発行責任者：渉外部長 田中規之  
編集委員長：渉外広報 植田恭司  
〒605-0041 京都市東山区三条東町 230  
TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

## かめおか宗教懇話会 総会・公開シンポジウム ～健やかに生きるとは～

かめおか宗教懇話会は7月14日、大本本部みろく会館3階ホールにおいて「平成30年総会・公開シンポジウム」を行いました。京都教会からも地元の亀岡支部会員をはじめ、多くの参加がありました。



総会では宝積玄承会長（臨済宗妙心寺派東光寺先住職）の開会挨拶に始まり、役員の変更、平成29年度の事業報告、収支決算報告及び平成30年度の事業計画、収支予算について協議がなされました。

昨年は比叡山宗教サミット30周年記念の年でもあり、祈りの集いへの参列や周年を記念した公開シンポジウムの報告がありました。事業計画ではガレリアかめおかでの、かめおかこころ塾の予定等が発表されました。

総会後は同会場で公開シンポジウムが開催され、総会からの参加者に加え、シンポジウムの聴取者で会場は満席。東京大学名誉教授の矢作直樹氏が「健やかに生きる」をテーマに約1時間30分の講演を行いました。矢作氏は講演の中で「中今（なかいま）に生きる」を強調し、中今に生きるとは何かに没頭している時、その瞬間は他のことを考えないことだと説明。食べる



ことが好き、賭け事が好き、歩くことが好き等、「今」に集中できることが健やかに生きることのポイントだと述べました。また、息が出来るだけでも「ありがたい」と思うように、感謝の気持ちを持った生活をおくることも大切で、感謝とはエネルギーであり、エネルギーも科学で説明できるようになってきたと紹介。全身に感謝の念をおくることも健やかに生きることのポイントだと述べました。

最後に同懇話会副会長の佐藤益弘氏（立正佼成会西日本教区長・京都教会長）が謝辞及び閉会の挨拶を述べ、終わりました。



甲子園と言えは、全国の高校球児が目指す最高の舞台。青春のすべてをかけて、厳しい練習を積み重ね、地方大会を勝ち抜いてきた選手たち。自校の勝利を願う、情熱をかけて応援する声援の響き。この夏も球場から大きな感動が全国を駆け巡ることでしょう。▼今年の全国高校野球選手権は100回の記念大会になります。この大会史上最多の56校が深紅の優勝旗を目指します。地方大会の参加校数の多い九つの都道府県から複数校が出場します▼高校野球、第1回は1915年、第一次世界大戦の最中に大阪・豊中で行われました。この時の優勝校は京都二中（現・鳥羽高校）でした▼第4回は米騒動で、第27回（1941年）は戦争で中止。4年間開催できず、終戦の翌年に28回大会を復活させました▼高校野球を愛する若者たちが与えてくれる感動は、日本が平和だから得られるのでしょうか。8月は特に、戦争と平和について考えるようにしたいものです。

### 時時刻々

平成30年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。

## 今月のことば ～敬う心と恥じる心～

洛叡支部 谷口みゆき

今月は、青年部の谷口が担当させていただきます。宜しくお願ひ致します。私は先月、大阪での練成会に参加しました。そこで沢山のことを学ばせて頂きました。

今月の会長先生のご法話「正行(正しい身の行い)」について考えてみました。「省みて自ら懼(おそれ)、自ら慎み、自ら戒めていく」という部分がありますが、その言葉が私の気持ちとすごく重なりました。

私は人や物事に向き合う際、誠実に向き合おうと初めは思うのですが、自分の思い通りにならなかったりハプニングが起きた時に、イライラしたり落ち込んだりして反省する気持ちを失くします。その反面、そういう自分が嫌だなとか、誠実に向き合う心がけが大切なんだと感じ、慎み、戒めていこうとする自分が常にいるなと思ったからです。そしてイライラしたり落ち込まない自分になるための一つの行いが、「ご供養」なんだという事を、練成会を通して気がつきました。

私は佼成会に入会させて頂いて2年が経ちます。教会の方や支部の方々からご供養の大切さを常々教わってきましたが、いまいちピンと来ず、正直に言う仕事に追われ「面倒だな」とか、「お経を唱えても何も変わらないのに」と思いながらあげており、気持ちも入っていませんでした。

ですが、練成会での朝のご供養中、「無量義経十功德品第三」をあげているうちに愚痴や不満を言ったり、人の幸せを素直に喜べない自分ではだめだなとい

う事に気づかせて頂きました。また「ご供養」の大切さという意味が、そういった気持ちを改めるように気づかせて頂く行いなんだと思いました。その時に初めて誰かに言われたからご供養を上げるのではなく、自分から「きちんとご供養をあげよう!」という気持ちになりました。

その時に感じた気持ちが、「しなければいけない」という気持ちから、ご供養を「あげずにはいけない」という気持ちに、知らず知らずのうちに変わっていったのだなぁと思いました。

「穏やかで思いやりのある人になりたい」というのが常に私の目標であり、練成会の誓願でもあります。人への思いやりや優しさ、前向きな物事の捉え方も、なかなか素直に持てずに思い悩む事がたくさんありますが、そういった気持ちが、会長先生のご法話の中にある「至らない自分に気づかせて頂いている時」なんだなと思いました。そういった気持ちを悔やむのではなく、ご供養を日々続けることによって少しずつでも身につけていけるのではないかと思います。

また、「敬う心と恥じる心」もあいさつや感謝の気持ちを言葉で表すことによって、私の目指している「穏やかで思いやりのある人」になるために大切なことだと、心にとめて頑張っていきたいと思います。

今回このお役を頂いたお陰さまで、気づかせて頂きました。ありがとうございました。 合掌

## 祇園祭を支える～清掃ボランティア(明社)・曳き手ボランティア(青年部)～

「京都明るい社会づくり運動協議会」は宵々山、宵山にあたる7月15、16日に「祇園祭ごみゼロ大作戦2018」(主催:京都市)に参加し、清掃ボランティアを行いました。2日間にのべ42人が、四条烏丸付近を中心に歩き回りながらゴミを拾い集めました。

数年前からリユース食器(繰り返し洗って再使用する食器の総称)が導入されているものの、割り箸など分別が必要なものもあり、清掃開始前に事務局から説明がありました。歩行者天国になった繁華街で道端に落ちているゴミを拾ったり、若者に食べ終わった食器

はないかと声をかけ、コミュニケーションをとりながら集めた後は、ゴミステーションに持ち寄るという作業を約2時間続けると、大変多くの回収ができ、美しい祇園祭の一助となりました。

また24日は「新宗連京都府協議会青年部」と「立正佼成会京都教会青年部」が八幡山と黒主山に分かれ、曳き手(昇き手)ボランティアに参加しました。当日は大変な猛暑の中でしたが、歴史あるお祭りを陰で支えられることに喜びを得ながら、ご町内の方々とも仲良く、笑顔で務めることが出来ました。



### 記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- ・終戦の日の思い出
- ・後世に伝えたいこと



## 「第十六回アイ・ラブ団参」に参加して

京洛支部

戸田陽子

6月30日と7月1日の2日間、ご本部で開催された「耳の聞こえない人・聞こえにくい人の参拝（第十六回アイ・ラブ団参）」に参加させて頂きました。

今回、聴覚障害のある娘が「体験説法」（7月15日号の佼成新聞に掲載）のお役を頂きました。このアイ・ラブ団参では、ボランティアを含めて参加者の多くは手話を使います。声を出さずに“手”だけで話す人もいるので、私には皆さんの会話がわからないことがありましたが、きょとんとしている私の表情を一瞬にして読み取って、一生懸命声を発して“話して”下さいました。

聞こえない人・聞こえにくい人たちは余計な雑音が入ってこないで、ものごとを素直に受け止めて「いい！」と思ったらすぐ行動に移します。庭野会長からお示し頂いている『易簡』（やさしくて手数のかからないこと・手軽なこと・たやすいこと）な生き方をされているのだと感じました。

この団参では、全員揃って参加のスケジュールが夜まできっちり組まれており、猛暑の中、荷物を持ちながら会場の移動もあって体力的にハードでしたが、参加者の生き生きとした表情に何度も支えられました。

聞こえない・聞こえにくい不自由さを、わかりあえる仲間との出会いを喜び様子があちこちで見られ、心からの笑顔にふれることができました。私の娘もその一人です。この団参のお陰さまで、自分から積極的に話しかけていくという、普段の生活では見られない娘の姿を見ることができました。

また、スクリーンで庭野開祖の映像とともに、ご法話の内容がすべて字幕で映し出されたとき、娘は「お父さんとお母さんは開祖さまに会ったことがあるんやろ？いいなあ、私も直接会いたかったなあ」と言い、親子で一緒に恩師のみ教えに出会えた喜びをかみしめさせて頂きました。

宿泊先の第二団参会館では、団参の参加者だけでご供養をさせて頂きました。お導師をつとめる実行委員長さんの補聴器の電池が、ご供養の途中で切れてしまうというアクシデントがありましたが、責任感の強い実行委員長さんは無音状態という不安のなか、一生懸命声をふりしぼってお役をつとめられました。そして、それに応えるかのように、最初はバラバラだった参加者の皆さんの声も、最後にはピタッと揃いました。

庭野光祥次代会長からは「ぜひ一度は実行委員長さんや、リーダーのお役をやって下さい。そうしたら、きっとその立場の人の気持ちがわかって、支えたり助けることができます。皆さんは聞こえない・聞こえにくい辛さを味わう、という宿題を持っておられますが、形は違っていろいろな宿題を持っている人がいます。そんな人たちの気持ちがわかる皆さんになって下さい」と、お言葉を頂きました。

娘は「まだまだ宿題がいっぱいあるわ～」と笑っていましたが、受け入れを担当して下さいった教育グループの方から「自分が変わる」ことを教えて頂いたので、団参から帰ってから、職場で相手の目を見て「ありがとうございます」と伝える実践を心がけている様です。

それまで上司から業務の書類を手渡されても、書類の内容が気になって相手のことは何とも思わなかったようですが、教えを聞かせて頂いて「これではいけない」と、お仕事をさせて下さる先輩や上司に心を込めてお礼を言えるようになると、いつも優しい表情で自分のことを見守って下さっていることに気がついたそうです。

また、いいと思うことは、家事もふくめて自分からすすんでするように、「言われてからするより、自分で気づいて行動するほうが楽しい！」と言って、毎日笑顔で働かせて頂いております。

思い起こせば十五年前「娘さんの耳は一生治りません、障害です」と薄暗い診察室で医師から宣告されたとき、検査のため眠ったままの娘の寝顔を見ながら「いったい、この子の将来はどうなるんだろう？」と、そのときの私には絶望しかありませんでした。

でも今では、娘の耳が聞こえにくいことや、全寮制の芳澍(ほうじゅ)女学院(本会の教育機関)を一カ月で辞めてしまうという挫折、父親からの腎臓移植といった様々な経験は、仏さまから選んで頂いたものだと思います。明るくて強い娘だから、受け入れて乗り越えていけるのかもしれない。娘を通して、私たち家族も人生に深みを加えて頂きました。

そして何より、娘のお陰さまで私自身が人として大きく成長させて頂けたのだと思います。これからも、いのちを頂いていることに感謝をし、アイ・ラブ団参で出会った皆さんのような『易簡』な生き方ができるように、精進させて頂きたいと思っています。 合掌

## 日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

今年から始まる新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみをもちましょう。

## 【歡喜(かんぎ)】

とても喜びことを表すが、仏教では「かんぎ」と読み、仏の教えを聞いて、この上ない喜びを感じることをいう。

信心の喜びにあふれ、そのあまりに手足が動き、踊りだすことを「踊躍歡喜(ゆやくかんぎ)」という。

一編や空也の念仏踊りの起源で、さらに発展したものが盆踊りになったといわれる。

同じ意味の言葉に「隨喜(ずいき)」がある。仏教では、他人の善行を見て素直にそれを喜びこと。感極まった喜びの涙を「隨喜の涙」という。

(「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋)

# 盂蘭盆会 ～ご先祖に思いをはせ、菩薩行に専念する～

7月15日「盂蘭盆会式典」が京都教会法座席で行われ、多くの会員が参拝しました。式典は奉献の儀、読経供養、佼成(暮らしの中の憲法)拝読、功德の発表、お説法、佐藤教会長の言葉と続きました。

お説法では、中野進一郎さん(支部壮年部副部長)が幼少からご法に抵抗がなく、ご供養ごっこを兄弟とするなど、両親のお陰で幸せな環境で育ってきたことに感謝し、平成28年に亡くなった父親と交流があった方々からエピソードを聞かされ、偉大さを感じたことを吐露。現在は母親と二人暮らしを始め、このたび継承勸請を頂くことになったと、その経緯を報告。人との信頼関係を築くことの大切さを感じると共に、これからもこの道を仲間と共に楽しく歩んでいきたいと決意を述べました。



佐藤教会長は「本日の戒名読み上げ者が100名、読み上げたお戒名が12,478体、新仏114体、先祖代々1,817家です」との報告のあと、説法の内容に触れ、子供の頃から信仰生活にふれることの大切さを述べられました。

そして、目蓮尊者のお母さんが餓鬼道に落ちていたことから盂蘭盆会が始まったと説明。目蓮尊者が釈尊にご指導頂けなかったらどうなっていたらと、お師匠から指導頂けることのありがたさを述べました。

また、西日本豪雨災害や過去の災害にふれ、「佼成会会員だけでなく地域の皆さんとも力を合わせ、菩薩行に専念していくことが、ご先祖さまに回向されるのではないのでしょうか」と結びました。



## 8～9月の主な教会行事

8月1日(水)	9:00～	朔日参り
4日(土)	9:00～	開祖さまご命日
10日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(水)	9:00～	平和祈願の日・釈迦牟尼仏ご命日
9月1日(土)	9:00～	朔日参り
4日(火)	9:00～	開祖さまご命日
10日(月)	9:00～	脇祖さま報恩会
15日(土)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
23日(日)	9:00～	秋季彼岸会

## ●メッセージ

日本国内では異常な高温で連日35度を越え死者も出ていますが、世界各地でも異常が続いているようです。世界気象機関(WMO)によると、7月に米国カリフォルニア州デスバレーで52度、ロサンゼルス近郊チノで48.9度に達し、アルジェリアのサハラ砂漠では51.3度を記録。北欧の北極圏では30度超えになり、森林火災も発生。

世界気象機関は「異常気象の発生確率は人間活動によって著しく影響を受けている」ことを明らかにしているとのこと。我々は今一度、自らの生活のあり方を見直す必要があるのかも知れません。